

キヌヒカリの栽培ごよみ

月	旬	5			6			7			8			9			10			収穫後
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階		育苗期			活着期			有効分	無効分	幼穂形成	穂ばらみ	出穂期	乳熟期～登熟期			成熟期				
作業		塩水選	種子消毒	播種	元肥	代かき	田植	除草		第一回	第二回	防除①			刈取り	乾燥	調整		稲ワラ	
水管理		代かき			中干し			間断かんがい			間断かんがい			落水(早期落水は品質低下)						

きぬむすめの栽培ごよみ

月	旬	5			6			7			8			9			10			収穫後
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階		育苗期			活着期			有効分	無効分	幼穂形成	穂ばらみ	出穂期	乳熟期～登熟期			成熟期				
作業		塩水選	種子消毒	播種	元肥	代かき	田植	除草		第一回	第二回	防除①			刈取り	乾燥	調整		稲ワラ	
水管理		代かき			中干し			間断かんがい			間断かんがい			落水(早期落水は品質低下)						

ヒノヒカリ・にこまるの栽培ごよみ

月	旬	5			6			7			8			9			10			収穫後
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階		育苗期			活着期			有効分	無効分	幼穂形成	穂ばらみ	出穂期	乳熟期～登熟期			成熟期				
作業		塩水選	種子消毒	播種	元肥	代かき	田植	除草		第一回	第二回	防除①			刈取り	乾燥	調整		稲ワラ	
水管理		代かき			中干し			間断かんがい			間断かんがい			落水(早期落水は品質低下)						

基幹防除例(全品種共通)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	使用回数	10a当たり散布量	備考
収穫後～2月末	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	集団一斉耕起			集落単位(10ha以上)で実施する。
5月上・中旬	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	集団一斉耕起			3月までに一斉耕起のできない地域(裏作の作付率が高く、休耕地が点在するような地域)では5月に行う。
浸種前		塩水選を励行する			(うるち米の塩水選は、水10ℓに食塩2.0～2.5kg、または水10ℓに硫酸2.2～2.9kgとする)
種子消毒	ばか苗病 褐条病 もみ枯細菌病 イネシガレンセンチュウ	モミガードC水和剤 スミチオン乳剤	200倍(1回) 1,000倍(1回)	24時間 種子浸漬 (風乾)	塩水選後水洗いを励行する。 風乾をしないと効果が高くなります。
播種時 又は 播種後	苗立枯病	タチガレン液剤 (7ゼリウム菌・ゼシウム菌) ダコニール1000 (リゾブス菌)	500倍(2回) 1,000倍 (播種14日後 まで2回以内)	1箱当り 500ml	タチガレンとダコニール1000は、7日以内の近接散布をさける。
育苗期	ヒメトビウンカ (縮葉枯病) ツマグロヨコバイ (萎縮病)	畦畔および 育苗中の防除 エルサン乳剤	2,000倍 (7/2)		畦畔や周囲の雑草を除草し、育苗箱はできるだけツマグロ等のいない場所におく。
田植の 3日前～当日	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ コブノメイガイ イネミズゾウムシ	エバーゴルド粒剤 (育苗箱処理)	(1回)	1箱当り 50g	
田植直後	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	ジャンボたにくん	(60/2)	1～2kg	代かきは均一にし、田植後はできる限り浅水に管理する。

(1) 液剤体系防除例(キヌヒカリ・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	使用回数	10a当たり散布量	備考(散発的防除)
8月上・中旬 (乳熟期)	カメムシ類 コブノメイガイ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	MR.ジョーカーEW	2,000倍 (14/2)	150ℓ	◎いもち病、紋枯病発生のおそれがある場合は、アミスターEイト1000倍(14/3)を散布(加用)する。 ◎登熟期～成熟期以降にカメムシ類の発生のおそれがある場合は、スタークル顆粒水溶液2000倍(7/3)を散布する。
8月上・中旬 8月上・中旬	カメムシ類 コブノメイガイ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	MR.ジョーカーEW	2,000倍 (14/2)		◎乳熟期とは穂が出揃い傾きかけた頃です。
8月下旬 (乳熟期)	いもち病 紋枯病	アミスターEイト	1,000倍 (14/3)	150ℓ	
8月下旬 (乳熟期) 9月上旬 (乳熟期)	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル顆粒水溶液	2,000倍 (7/3) 3,000倍 (7/3)		

(2) 粒剤体系防除例

(キヌヒカリ・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	10a当たり散布量	備考
8月上旬 8月上旬	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	イモチエースクラブ粒剤	3kg (35/1)	漏水田では粒剤の効果が若干低下します。 散布後1週間程度は水を止め、落水しないでください。
8月上旬 8月中旬 8月下旬	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤	3kg (7/3)	

(3) 豆つぶ体系防除例

(キヌヒカリ・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	10a当たり散布量	備考
8月上旬 8月上旬	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	ワイドパンチ豆つぶ	250g (35/1)	使用時は灌水状態を保ち、散布後1週間は落水しないでください。
8月上旬 8月中旬 8月下旬	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル豆つぶ	250g (7/3)	吸湿性の為、濡れた手で作業や、降雨時の散布を控えてください。

除草剤使用基準 稚苗移植栽培(10a当り使用量)

- ◎1年生・多年生雑草同時防除(田植同時処理・一発処理)  
田植直後～12日(1回) アールタイプ1キロ粒剤 1kg
- ◎1年生・多年生雑草同時防除(省力一発処理)  
田植後0日～12日(1回) ミスターホームランLフロアブル 500ml
- ◎1年生・多年生雑草同時防除(超省力一発処理)  
田植後5日～15日(1回) ゼータファイヤジャンボ 40g×10個
- ◎1年生・多年生雑草・ジャンボタニシの食害防止剤  
ジャンボタニシの食害防止と1年生・多年生雑草防除  
田植後0日～10日(1回) ショウリョクジャンボ 50g×10個

※スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)に7日程度の食害を抑える効果はありますが、殺菌効果はありません。  
※ジャンボたにくんと併用は効果が低下しますので避けてください。

一発処理後とりこぼし雑草がある場合(10a当り)

- ◎サンパンチ1キロ粒剤1kg(灌水散布)  
移植後15日～ナビエ3.5葉期  
但し収穫60日前まで/1  
(1年生・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ)
- ◎クリンチャーパスME液剤(落水散布)  
移植後15日～ナビエ5葉期  
但し収穫50日前まで/2  
薬量1,000ml/希釈水量70～100ℓ

※除草剤使用上の注意点

- ① 藻類、ウキ草類の多発田では通常除草剤使用前にモゲン粒剤3kg/10a(45/3)を施用する。
- ② 圃場は均平に努め、代かきはいないにする。
- ③ 水管理に注意し、3～5cmの灌水状態で散布して、1週間程度は落水しないようにし、かけ流しや田面の露出はさける。  
※ジャンボ剤については、5cm以上の灌水状態で散布する。
- ④ 漏水田では特に除草剤の使用に十分注意する。
- ⑤ 使用時期(特に、ゼータファイヤジャンボは、田植後5日以降)には、十分注意する。

良質米生産のポイント

1. 土づくり
2. 健苗育成
3. 間断かんがい励行
4. 病害虫の適期防除
5. 適期刈り取り

●土づくり対策

- 深耕
- 生ワラの全量還元  
石灰チソンの施用は、耕起時に10a当り20～30kgとする。  
水田の乾土効果高めるため、耕起は12月～2月末までに行う。

土壌改良資材	施用量の目安(10a当り)	
	標準水田	秋落ち水田
農力アップ (ケイ酸 20.0% (珪土 1.0% リン酸 2.5% 鉄 12.0%))	100kg	140kg

◎ケイ酸の施用効果

- ・茎葉を強くし、倒伏の軽減や、病害虫に強い株を作る。
- ・受光体制を良くすることで、登熟歩合を向上させるとともに、乳白米の発生を抑制する。

◎鉄の施用効果

- ・根を保護し、根腐れ秋落ちの防止、養分吸収の向上に役立つ。

●標準型施肥例

肥料名	施肥量kg/10a			成分量		
	元肥	第1回追肥	第2回追肥	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
標準型	米一番(太閤) (12-14-12)	40		9.6	7.2	9.6
	穂肥一番 (12-4-12)	20	20			
野菜跡地型	P K 化 成 (0-20-20)	30		4.8	7.6	10.8
	穂肥一番 (12-4-12)	20	20			

●省力型施肥例

肥料名	施肥量kg/10a			成分量		
	元肥	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		
キヌヒカリ	標準型	45	10.8	3.6	4.0	
	早生	40	9.6	3.2	3.6	
きぬむすめ ヒノヒカリ にこまる	標準型	45	10.8	3.6	4.0	
	晩生	40	9.6	3.2	3.6	

(注1) キヌヒカリでは初期分けつを促すため、元肥を割増し程度増やしてください。  
(注2) 省力型施肥例では、P・K成分を低くしていますので「農力アップ」を必ず施用し土づくり対策を行ってください。

特殊病害

防除時期	病害虫名	防除方法
出穂8～18日前	稲こじ病	低温多雨、多肥栽培で発生しやすい。出穂8～18日前にアミスターEイト1000倍(14/3)を散布する。 
—	もみ枯細菌病	出穂時の高温・降雨で感染するおそれがあるため、種子更新及び種子消毒を徹底する。 

重要病害虫防除

防除時期	病害虫名	防除方法
出穂～乳熟期	斑点米カメムシ	・カメムシの越冬対策として、冬場から圃場周辺の雑草を除草する。 ・畦畔や周囲の雑草を除草する。 ※出穂2週間前までに除草して、カメムシのすみかを無くす。 ・出穂期～乳熟期に薬剤を散布する。 
出穂期以降	紋枯病	上位葉への発病が見られる場合、バリダシン液剤5,000倍(14/5)を株元にかかるように丁寧に散布する。 
—	イネシガレンセンチュウ	種子更新及び種子消毒の徹底を行う。 
—	縮葉枯病	・越冬害虫であるヒメトビウンカの保毒するウイルスが原因で起こる病害であるため収穫後の圃場は出来るだけ早く耕起する。 ・感染期間は、幼苗期～分けつ期であり、育苗期の防除と育苗箱処理を組み合わせた体系防除を行う。 

※栽培履歴は忘れず記帳!!

※品質アップは種モミの更新から!!

◎農薬の使用基準は変更になる場合があるので注意しましょう。

◎農薬使用基準を守り、適期適正防除を行いましょう。

◎農薬による急病で診療先がわからない場合は、県救急医療情報センター TEL 073-426-1199または426-1252へ

平成30年12月現在

海草振興局農林水産振興部

農業水産振興課監修

防除の際は飛散(ドリフト)に注意しましょう。

防除記録は必ず記帳しましょう!!

農薬(毒物・劇物)の購入には必ず印鑑を!! 農薬散布は必ずマスク・防除衣を着用しよう。